

[コラム] 発想考案のすすめ

ギザギザ連結列島案

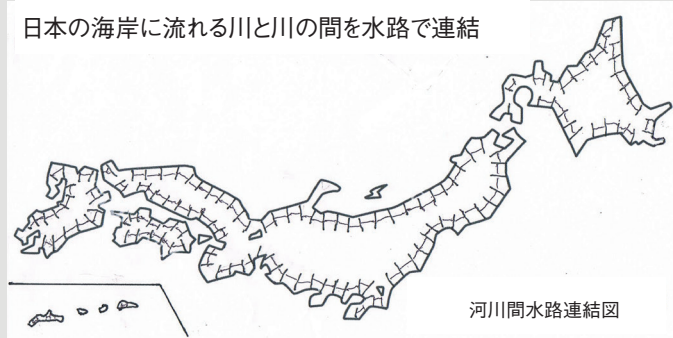
—河川間水路の上に生活空間を

網本義弘 (発想工学研究所主宰、九州産業大学名誉教授)

私達の住む日本という国の自然風土を、物理的または無機物的な側面から観れば、世界でも珍しいほどの多様な自然災害国であろう。それが巻き起こす人間社会への被災と言う大問題と、最近の報道映像でも自覚させられる豪雨洪水による人工的土台としての平地被害や、皮肉にも人間の手が加わった山麓植林の崖崩れ等々。

《河川間水路上に住居を創る》

それらから少しでも安全な策として、面積では小国ながら世界のトップクラスの沿岸の長さで河川の多さを逆用すればと、前回のコラムでも「河川の上に社会を創る」という珍案を出してみたが^(注1)、その発想の応用・延長版として今回は、その約3万kmに及ぶ海岸線に流れ注ぐ「川と川の間を最短直線で結びつける水路」を掘れば、新たな河川となり、豪雨増水による平地への水害減少の対応策にもなり、その上の巾広い橋桁に免震装置付きトラサ型住空間を並べ置くという案。



最近のウイルス感染問題も、この河川間水路上の住居を先ずは風通しの良い戸建てか、三面解放の集合住宅などにすれば大丈夫かなと思ったりする。

《ギザギザ・凹凸連結型の日本改造》

そして、この水路や海岸その他から掘削された土砂、石、岩をコンクリート化し、以前何度か紹介した^(注2)、空気が中に入った風呂桶逆さ型の方舟 (Upside Down Ark [UDA]) を造って沿岸に並べれば、地震や津波にも耐えられ、1気圧 = 10ton (1万Kg)/m²という驚くべき自然力の土台には鉄骨構造型産業空間などいくらでも置け、内部の気圧を高めれば超高層マンションまでも可能になるはず。

以上を合わせれば、さながら「ギザギザ凹凸連結列島」とでも言えそうな日本改造案となる。一見ストンキョウ極まる珍案かも知れないが、あくまで自然の理を少し応用したまでのものである。日本がこの案を低コストで実現す

[column] Recommend to Think and Enjoy Ideas

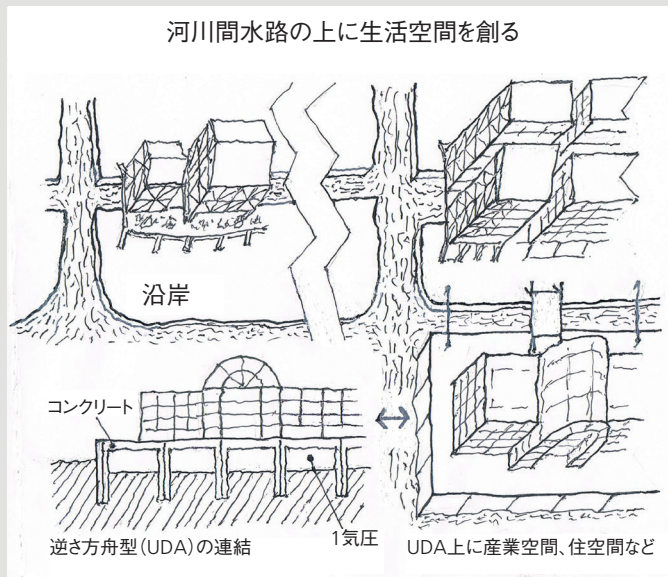
The Jagged connection type Archipelago plan -Creating a Living space on the Waterway connecting rivers

Yoshihiro Amimoto (Idea Engineering Laboratory Leader, Honorary Professor of Kyushu Sangyo University)

れば、東南アジア列島諸国の舟上型、海面高床型生活空間社会も大きく変ることであろう。

《冷暖房エネルギー節約国家に》

ところで、同じく小国日本列島の全長は、3,000km以上という、まさに世界的に見ても「長国」となり、列島を縦位置にすれば大国アメリカ合衆国の南北よりも長くなってしまふ。その必然的結果として、日本南北両端間の冬の温度差は何と50度前後にもなる記録もあるほどの、まるで南洋から北洋までの気象を合せ持つとんでもない側面を持つ国である。ならば、そこで使われる冷暖房用エネルギー



を節約する国家への道として、このギザギザ連結国の各家庭が避暑、避寒の空間移動を行なうに当って、交いに自由な使用 (持家、借家) を兼ねるようにすれば、アツアツ、ゾクゾクも同時解決となる……等々。

ということで、さあ皆で楽しく考えましょう「日本改造計画」案を。

・注1) 本誌129号 2019年

・注2) 本誌90号 2013年、105号 2015年、110号 2016年



網本義弘 (あみもとよしひろ)

1944年神戸市生まれ。東京教育大学 (現 筑波大学) 卒業後、長年九州産業大学で空間デザインを担当。『ギリシャ讃歌』『発想工学を知っていますか』『温故創新のアジアデザイン・パワー』等の著書の他、阪神大震災での写真展 (1995) を始め、中国寧波での防災デザイン国際会議 (2008)、ユネスコ創造都市北京サミット (2013) 等で様々な防災アイデアを提案する他、新聞、雑誌等でも提案。それらの発想を、誰もが表現出来る術としての「全民設計」の講習会も国内外で行なう。又、地方から全国へをモットーとする学際サロン「テクネ」代表。